日本の白鳥　Nihon no Hakuco　(25):37-39, 2001

# 日本白鳥の会発会の前後のこと

松井　繁
060-0006　札幌市中央区北６条西20丁目

冒頭から私事にわたり恐縮であるが、私は昭和43(1968)年に心臓発作に襲われ、九死に一生をえた。この時わたしが生きていた証拠に日本の白鳥の写真集を作りたいと思いつき、日本中の白鳥の飛来地を歩いた。そこで白鳥の保護をしている人、研究をしている人達と出会った。

この時、河北潟で白鳥の保護をしていた二木さん(故人、名誉会員)から、「私は保護で苦労しているが成功している人たちもいるでしょう。そういう人達の失敗談、成功談などを一堂に会して話をする場を、先生が発起人になって作ってくれませんか」と頼まれた。

瓢湖に行ったとき、吉川繁雄さんと現副会長の本田さんと会った。二人は昭和46(1971)年にローゼ・レッサーさん(名誉会員)と一緒に英国のスリムブリッジで開か

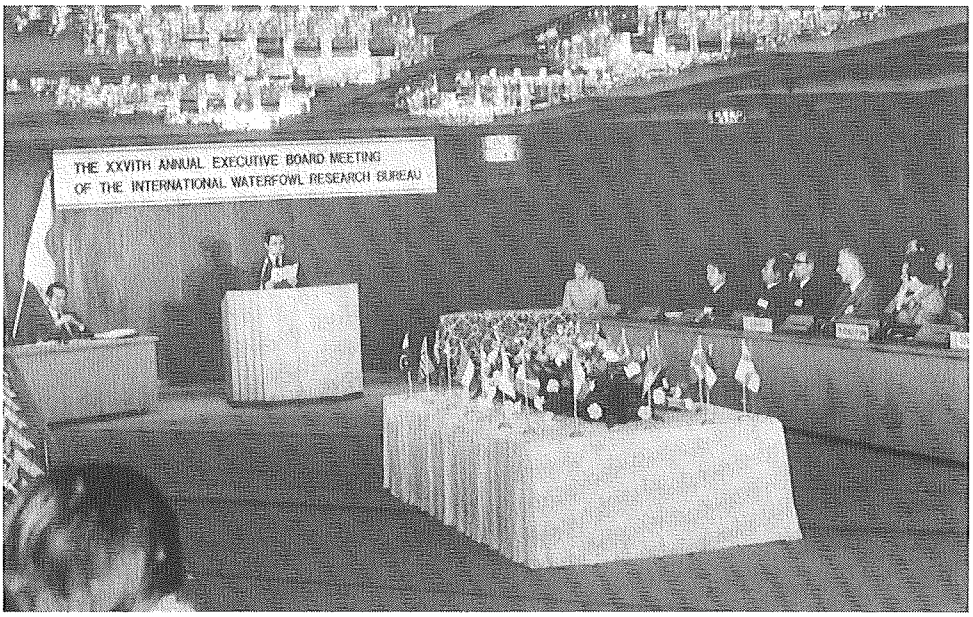


図1．第26回IWRB総会-1.

Shigeru MATSUI, Starting of the Swan Society of Japan. Swans in Japan (25): 37-39. (2001).

れたIWRBの白鳥の第１回国際シンポジウムに参加したが、その時に第２回のシンポジウムの開催を日本でと要請された。そこでその開催の中核になるべき団体－日本白鳥の会－を作ってほしいという相談を受けた。この二つの話から昭和48(1973)年に白鳥の会が生まれたのである。発会式の朝、NHKの朝のテレビ番組で会が設立されることが取り上げられ、本田さんと私が鈴木健二アナウンサーとスタジオで対談、「日本白鳥の会発会」が放送され、スタジオで緊張したことを思い出した。

昭和51(1976)年11月に当時の環境庁長官・丸茂重貞医学博士にラムサール条約の早期批准、IWRBへの国としての加盟等の陳情を、白鳥の会として三上副会長、本田事務局長、松井が行った。これらの陳情はわが国では、NGOとしては初めてのことであった。

同年の12月に山階鳥研の山階芳麿先生と相談して、IWRBの日本支部設立の話をしに英国の本部のマシューズ事務局長のもとに行った。水鳥、湿地の調査研究に協力することを条件に、承諾を得た。また、政府加盟でなく、民間として加盟するのだから

ということで、年会費は20万円とすることになった。

昭和52(1977)年11月　マシューズ局長が来日し、IWRBの日本委員会が設立された。この時、事務局長は「日本ではハクチョウだけでなくツルのシンポジウムも、それにIWRBの総会も共に」と話されていた。

昭和52(1977)年12月から53(1978)年の１月に、会ではIWRBの本部のあるスリムブリッジとイギリス水鳥協会(WFT)の動物保護区(スリムブリッジの保護区にIWRBが同居)見学ツアーに行ったが、その時、局長から再度総会、ツルのシンポジウムを共

図2. 第26回IWRB総会-2.

にしないと日本では外国人が集まり難いよというアドバイスを受けた。

これらのアドバイスを受けて昭和55年の２月に札幌で総会とハクチョウとツルのシンポジウムが行われたのである。（名誉会長）